

開教

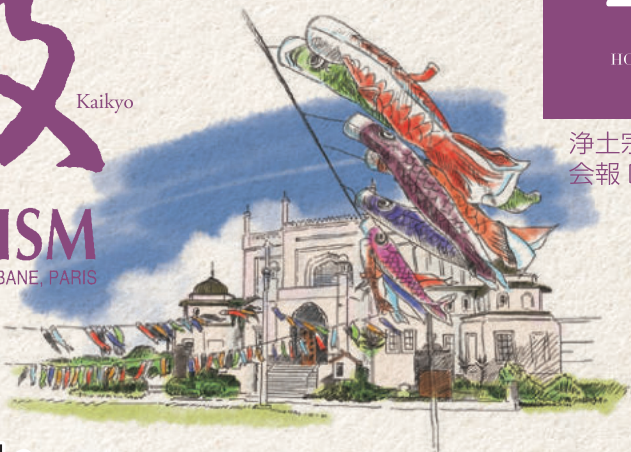
Kaikyo

HONEN BUDDHISM

JAPAN, HAWAII, NORTH AMERICA, SOUTH AMERICA, BRISBANE, PARIS

Volume
41
HONEN BUDDHISM
2023

浄土宗開教振興協会
会報〔開教〕



南 米
開教区

開教70周年を
迎え、更なる発展へ

ハワイ
開教区

ハワイ開教区令和4年度の活動
鯉のぼりセレブレーション

北 米
開教区

2022(令和4)年度の
活動について



オーストラリア
開教地

「オーストラリア開教地の
活動に加えて」

フランス
開教地

令和4年度
活動報告

協会事業

第13回開教公開カンファレンス
南米開教の過去と現在、
そして輝かしい未来に向けて



浄土宗
Jodo Shu
Buddhist Denomination

2 ご挨拶

浄土宗開教振興協会会長
浄土宗事務総長 川中 光教

海外開教

3

南米開教区

開教70周年を迎え、更なる発展へ

南米開教区開教総監 佐々木 良法

開教振興協会より勧募のお願い

5

ハワイ開教区

鯉のぼりセレブレーション

ハワイ開教区開教総監 石川 広宣

6

北米開教区

2022(令和4)年度の活動について

北米開教区総監 後根 定賢

本院主任 田中 孝道

7

オーストラリア開教地

「オーストラリア開教地の活動に加えて」

オーストラリア開教地主事 ウィルソン 哲雄

8

フランス開教地

令和4年度活動報告

フランス開教地主事 高僧 光隆

国内開教

9

国内開教通信

十念寺の令和4年度振り返りと
今後の展望

宮城県仙台市 十念寺

住職 伊東 秀真

11

各開教区開教使名簿

12

第13回開教公開カンファレンス

南米開教の過去と現在、
そして輝かしい未来に向けて

13

浄土宗開教振興協会

令和4年度 会員名簿

18

浄土宗開教振興協会 役員名簿

浄土宗開教振興協会 事業報告

19

浄土宗開教振興協会

令和4年度 決算書

21

令和4年度 教区別正会員比率

22

会員の声

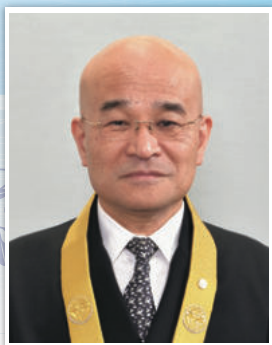
海外開教や開教振興協会への思い

瑞林院 河合 真人

編集後記



ご挨拶



浄土宗開教振興協会会長
浄土宗宗務総長

川中光教

初めに昨夏のマウイ島大火災にて命を落とされたすべての人々にお念仏を申し上げます。南無阿弥陀仏。

国内外において念佛流通のため、
布教・開教に奔走いただいている皆様
に御礼申し上げます。

2019年に端を発したコロナウィルス感染症流行、地球温暖化を根源とする昨年8月のマウイ島大規模火災によるラハイナ浄土院の焼失と檀信徒皆様の被災。そして寺院を取り巻く社会情勢の変化。この数年は開教区だけでなく浄土宗としても厳しい期間となりました。

本年浄土宗開宗850年正當の記念すべき年を迎えました。浄土宗の歴史

を振り返れば、それは法然上人開宗以来の開教の足跡であります。法然上人ご自身が、そして脈々と続く弟子の先師たちが、諸行無常の苦しみの中で凡夫が凡夫に寄り添って伝えた救いの歴史であります。寺院名鑑には知恩院からフランス開教地まで約7千の寺院名がありますが、そのすべては開教地であった。そして現在も開教の現場であるはずなのです。開宗850年を浄土宗全教師が布教・開教について考える機会とする。その勸奨が私の使命であります。会報「開教」をご覧いただいた皆様にはぜひ旗振りのお手伝いをいただきたく、お願い申し上げます。

南米開教区

South America

開教70周年を迎え、更なる発展へ

南米開教区開教総監 佐々木 良法

南米開教区は「南米の大地にお念佛の声を！」を合言葉に活動を継続しており、いよいよ本年、開教70周年を迎えました。その記念事業の中心として掲げる「クリチバ日伯寺本堂建立」に向けて着実に一歩一歩進んでおります。

現在は第1期工事として、現存の家屋を庫裡、厨房としてリフォームする工事が進行中、仮本堂としていた建物を解体し、本年7月30日には地鎮式を厳修しました。

近々第2期工事である本堂建設に着工いたします。

当事業の寄付金勧募は、コロナ禍の沈静化に伴い、ようやく本格的にブラジル、日本両国で開始いたしました。日本においては開教振興協会の全面的な協力のもと、全国に寄付勧募活動を展開し、令和4年度は当開教区から私佐々木が10月、クリチバ日伯寺の大江田晃義主任開教使が11月に訪日し、総大本山を始め、日本各地合計103ヶ寺を勧募訪問させて頂きました。勧募先のご寺院様との連絡から同行まで元南米開教使の方々にご協力いただきました。また訪問先のそれぞれの寺院さまにて、温かくお迎え頂き、趣旨の説明に熱心に耳を傾けて下さいました。更に、訪問先の教区長をはじめ、教化団長、宗議会議員、各教区の組長様方より、教区内の会合にて広くご協力を呼びかけるためと、勧募用パンフレットの追加要請も沢山頂きました。みなさまのご厚意、ただただ感謝の念に堪えません。訪日勧募事業を

通して受け取った日本の皆様の熱い思いを胸に、今後更に南米開教区一丸となって精進して参らねばと強く感じております。

ブラジルでの新型コロナウイルス蔓延は、ワクチン接種の効果で感染者の重篤化、また死亡者も激減し、社会状況はほぼパンデミック前に戻りました。それに伴い寺院活動も以前のように参拝者や法事などを受け付けるようになりました。以下、当開教区の諸活動についてご報告します。

別院日伯寺

別院では、書道、日本語学校、生花などの文化活動、古武道、空手、合気道などの武道、ダンス、ヨガなどのエクササイズ、マッサージ、カイロプラティック、アクセスバズなどのセラピー活動、お年寄りのデイケア活動など多岐に渡る活動を行なっております。

また通常の法務活動に加え、別時念仏会、ダルマトークも月1回で始めました。これらの様々な活動は檀信徒の好評も得ており、

お寺の運営維持管理にも非常に大きな役割を果たしております。今後も一人一人の意見に耳を傾ける、人々に寄り添った活動を行ってまいります。

マリंगा日伯寺

マリंगा日伯寺は、同じ敷地内に高齢者福祉施設「和順ホーム」があるため、感染症対策に配慮が厳しく行き届いた運営、活動を心がけております。こうして規制緩和が著しい一般社会とは対照的に厳しい対策が求められる状況ではあります。檀信徒、和順ホームの運営母体「和順会」会員をはじめとする、パラナ州



地鎮式



花まつりの屋台

開教振興協会より勧募のお願い

南米開教区では、2023 年に開教 70 周年を迎えるにあたり、所属開教使や開教助員、檀信徒の方々の熱い想いをもって、南米開教区クリチバ日伯寺本堂建立事業が開始されました。事業開始に伴い、ブラジル国内はもとより、日本国内でも浄財の勧募をお願いしております。皆様におかれましては、クリチバ日伯寺本堂建立の趣旨を御賢察のうえ、絶大なる御協力を賜ります様、謹んでお願い申し上げます。

建立事業趣意書

期間	2022(令和4)年1月～ 2024(令和6)年12月
建設内容	本堂建立、教化ホール建設、 境内設備等
総予算	約1億2千万円

勧募要項

勧募期間	2022(令和4)年1月1日～ 2024(令和6)年3月31日
勧募目標金額	6,100万円
功績点の付与	(1)個人寄付金 5万円に対して1点 (2)勧募寄付金 20万円に対して1点
勧募母体	浄土宗
勧募窓口	浄土宗開教振興協会
勧募方法	郵便振替 (専用の振替用紙がございます) 振替口座：00160-5-175767 ※銀行へのお振込みをご希望の方は 問い合わせ先までご連絡ください。

※浄土宗開教ネット(URL：<https://kaikyonet.jodo.or.jp/>)内の
の当事業特設ページには、【勧募のお願い】動画を掲載しております。
併せてご覧ください。

[https://kaikyonet.jodo.or.jp/
curitiba-kanbo/](https://kaikyonet.jodo.or.jp/curitiba-kanbo/)



▲ 浄土宗開教ネット



花まつり

全域の皆様からの善意の絶え間ないご支援、更に感染状況が落ち着いた時に行う慈善バザー、やきそば販売会などにも多数のご協力をいただき、同寺及び和順ホームの滞りない運営を支えていただいております。

イビウーナ日伯寺

イビウーナ日伯寺では、7月の地蔵まつりより、大法要への参拝受付を再開、9月に、コロナ禍で延期していた開基20周年、日本移民110周年記念庭園「朋楽園」開園式、10月にはおぼん大法要及び盆おど

りを開催、それぞれの行事に、参拝再開を待ちわびていた檀信徒及び地元の人たち150名以上が来られ、久々にお寺が活気あふれる雰囲気になりました。

クリチバ日伯寺

クリチバ日伯寺では、昨年よりコロナ禍により休止していた文化活動、毎月の誕生会、対面での大法要などの活動を再開しております。また7月の30、31日の2日間には市役所との共催による「花祭り」を開催しました。この花祭りは今年で16回目となり、灌仏会、稚児行列

から始まり、日本食屋台が並び、太鼓・舞踊、歌など日本の文化活動が舞台で繰り広げられる文字通りの「お祭り」です。コロナ禍により2年間休止しており、昨年も7月まで時期がズレ込みましたが、待ちわびた人たちが押し寄せ、2日間で2万人が来場し、大いに盛り上がりました。このようにそれぞれの寺院でその時の状況に感じながら、開教活動に取り組んでおります。70周年を迎えた開教区は開教使一同、より一層団結して南米開教の発展、念佛弘通の為に精進して参りたいと思っております。



ハワイ開教区

Hawaii

開海
教外

ハワイ開教区令和4年度の活動 鯉のぼりセレブレーション

ハワイ開教区開教総監 石川 広宣

令和4年4月、ハワイ浄土宗別院で「鯉のぼりセレブレーション」を開催しました。鯉のぼりは、もともと江戸中期に始まった端午の節句の慣習の一つ。特に戦後は「子供の日」を中心に、子供の健やかな成長を祈って屋外に飾ります。ハワイでも、移民初期に「鯉のぼり」の慣習は伝わりましたが、一所にて多くの鯉のぼりを掲げる場所はないことから、他の団体に先駆けて多くの鯉のぼりを掲げる事業を提案。過去、現在、未来のすべての人の命を祝福するという意味を込めて「鯉のぼりセレブレーション」と名付けました。特に、コロナパンデミック以来、多くの人が亡くなり、不自由な生活を強い

られてきましたので、ハワイの青い空、さわやかな風に自由にたなびく鯉のぼりによって、多くの人を励ましたいと思いました。

中国の故事によれば、黄河上流にある竜門の滝を登り切った鯉は竜になるとの伝説があります。そこから「鯉の滝登り」「登竜門」など立身出世を意味する言葉が生まれましたが、以来、鯉は力強さを象徴し、困難を乗り越えて高い目標を達成できると信じられるようになったと言われています。コロナ禍で、多くの人が困難を感じている今だからこそ、より多くの人に参加して頂きたいと願い、鯉のぼりをスポンサー制とし、寄付を募り、メッセージを取り入れました。メッセージは、石川弥生開教助員が考案した鯉の形をしたカードに印刷後、堂内に吊るしました。多くの方は子供や孫の成長を祈願され、あるいは亡き人を偲び追悼の意をこめて、スポンサーになって頂きました。

当院は、ホノルルでも、特に車



の往来が多いフリーウェイ（高速道路）に隣接しています。したがって、鯉のぼりを掲げて以来、実に多くの人が目をとめ、当院に立ち寄って頂きました。勿論、寺報でスポンサーを募りましたので多くの信徒家族の方がいらつしやいましたが、初めて当院を訪れる方も多く、地域の中での存在を意識して頂けるようになったと思います。これまで寺院行事の宣伝に新聞広告を利用してきましたが、高額な広告料を費やしたとしても、実際購読者に見て頂けるといふ保証はありません。また、新聞広告は、基本1日のみです。しかし、この鯉のぼりは1カ月の長きにわたってかかげましたので、私はここに広告以上の宣伝意義もあると思います。鯉のぼりは、いわば、寺院が地域の人々にお贈りする



言葉なき祝福であり、今後も鯉のぼりの数を増やし続けてまいりたいと思います。

本年は、特に浄土宗開教振興協会より事業助成を頂き、ハワイ開教区全体の事業として計7カ寺でも開催することができました。ここに紙面を借りて、厚く御礼申し上げます。

北米開教区

North America

2022(令和4)年度の活動について

北米開教区総監 後根 定璽
本院主任 田中 孝道

2023年3月、懸案の堂宇移転事業の第一段階である北米開教区本院建物の売却が無事完了しました。本移転事業は2017年暮れの北米開教区理事会決議を経て翌2018年より着手しましたが、その後コロナによるロックダウン・暴動と外出禁止令・アジア系へのヘイトクライム・急激なインフレ等の不測の事態に見舞われ、売却まで約5年を要しました。その間もホームレス人口は増加し続け、薬物中毒・

糞尿・落書き・投石など周辺の治安悪化はより深刻化しました。さらに、2023年初頭は例年になく寒波により昼夜を問わずホームレスによる野火の問題に直面しました。このような状況の中、寺院建物が深刻な被害を被らず信徒・開教使とも無事に宗教活動を継続し、売却行程を完了できたことはただただご本尊の加護と感じています。

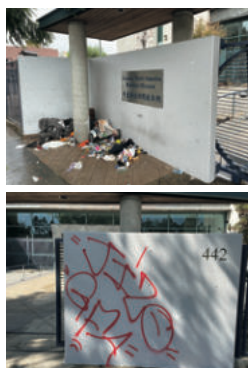
はじめ日本の関係各位に配布、加えて当院ウェブサイトを通じて世界各地より郵送希望を受けました。本英訳本は単に信徒教化に留まらず、数多い真宗寺院や親鸞聖人に関する書籍を通じて浄土教に触れた西洋人に法然上人の念仏行を紹介する最良のテキストとなると期待されています。

参詣のもと、引越後初の法要として益・大施餓鬼会を厳修しました。年回・各種回向や祈願などその他の仏事は信徒宅を訪問して行うよう努めています。

昨年中、当地ではコロナ規制からの通常の社会生活への移行が進み、年5回の定例法要と年2回の大掃除など、ほぼパンデミック前と同様の宗教活動を行うことができました。とりわけ、婦人会はじめ信徒の方々の尽力によるお斉・懇親会の再開は大変喜ばしいことでした。また昨年10月、開教振興協会様の支援を受け絵本山知恩院版『法然上人御法語』英訳本を刊行し、当院信徒と米国内の希望者・知恩院様

当地では長引くインフレに不況、翌年に控えた大統領選挙等により政治・経済とも不安定な社会状況が予測され移転事業推進には困難もありますが、信徒及び地域との信頼醸成を第一に寺院活動を続けます。

リトルトーキョーにおける寺院での最後の法要 春彼岸

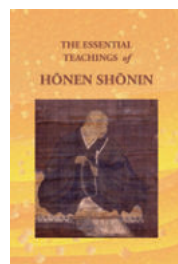


治安悪化が深刻化していたリトルトーキョー

莊嚴等の撤去・引越作業を経て同月末日をもって建物退去、現在トランス市内の仮寺務所を拠点に新地物件調査を行っています。先の7月9日にはトランス市の公会堂施設にて約60名の信徒



引越後初の法要 益・大施餓鬼会



『法然上人御法語』英訳本

オーストラリア開教地

Australia

「オーストラリア開教地の活動に加えて」
オーストラリア開教地主事 ウィルソン 哲雄

ブリスベンの浄土宗は、とても小さいコミュニティですが、年々成長しています。ホームページやFacebook、そして人伝えて新しい方々に知れ渡り、阿弥陀寺での年間を通してある法要に足を運んでくれるようになりました。

南半球に位置するため、3月は秋のお彼岸会を催しています。同時に東日本大震災、津波の被災にあわれた方々への法要も行っています。今年は、前ブリスベン小野総領事の参列があり、当時の経験のお話がありました。総領事のご実家は福島で、ご自身は赴任先のカンボジアでそのニュースを知ったそうです。とても不安で心配されたようですが、幸いご家族は無事だったとの事でした。引き

秋のお彼岸会

続いて、高校生2人によるバイオリン個人演奏があり、引き続いてプロの音楽家による指導の下、皆で日本の歌を歌いました。日本人でない参列者も楽しみました。音楽に境界はありません。

この催しが全て終わったあとは、お茶会が開かれます。これは、

参列者同士の近況報告や情報交換のいい場となっています。ここでの日本人コミュニティは、ブリスベン周辺の北から南、西から東へと広大な距離に分かれています。80km先のゴールドコーストにお住いの方々もあり、容易に会えませんが、このように、阿弥陀寺での年中行事は、日本人コミュニティを繋げる重要な役割も担っています。

それと同様に、この年間法要に参列される方々は、現在におけるオーストラリア社会に対しての情報も耳に入れることができます。これは、英語と日本語で紹介されます。今年のお盆法要には、ゲストスピーカーを迎えました。David Pullarさんという、アボリジニ人を祖先に持つ方で、10月に行われる国民投票についての話がありました。今回の国民投票の意味、改憲は、植民地化前にオーストラリア大陸に居住していた先住民の存在を憲法の上で認識するというもので、それにパスすればアボリジニとトレス海峡諸島民に権利が与えられるとの事でした。この彼の生

きた声によって、オーストラリア文化と生活を正しく理解することができたとの感謝の声が多く聞かれました。

それとは対照的に、木曜島でのお盆法要はとても独特です。木曜島、金曜島、それぞれの島には一人ずつ日本人が住んでいます。その二人以外でお盆に参加する他の人は、日系二世、三世、四世の世代で、生まれも育ちも西洋とトレス海峡諸島の文化で、英語を話します。しかし、このお盆法要を通して自分の日本人としてのルーツを認識しています。お盆では、伝統的な衣を身に着けた日本の僧侶が日本語でお経を唱え、そして仏教上のお盆の意味、その時期日本では何をやるかなどという私の話にも耳を傾けます。これら全てが日本の生活、習慣、伝統を繋げるのに役立ちます。

彼らにとってこの繋がりはとても大切なものです。二世は既におじいちゃん、おばあちゃんになっており、この繋がりを現状維持するのが今までの主な役割でした。しかし、ここでの法要を続けることで、この役目を子供や孫へ、子孫へ、日本人としての認識がずっと受け継がれていくのです。

また、木曜島でのお盆には、もう

一つ別の側面があります。トレス海峡諸島市長と日本領事館からの参列があります。市長は、1890年から太平洋戦争開始まで、真珠産業で木曜島発展に多大な貢献をもたらした日本人の真珠ダイバーへの敬意を表しています。当初、真珠産業はこの島に莫大な富をもたらしました。同時に、木曜島は多文化社会へと発展していきました。これは、人種差別のあるオーストラリア南部とは対照的でした。日本領事は、オーストラリアと日本の二国間関係を表しています。この関係は1890年から始まり、最初の領事館はクイーンズランド北部のタウンズビルで設立されました。このオーストラリアと日本の経済と文化の繋がりは、とても重要です。

このようにして、オーストラリアでの開教はいつも新たに切り開かれています。当たり前の平凡な法要の裏側には、常に何かがあるのです。

ブリスベン
日本国総領事館の
小野総領事

木曜島日本人墓地のお盆法要

フランス開教地

France

令和4年度活動報告

フランス開教地主事 高僧 光隆

浄土宗ヨーロッパ仏教センターは欧州でお釈迦さまの教、そしてその教えを旨とし浄土宗を開かれた法然上人のお念仏の教えの布教活動において、「仏教つてな〜に」、「お念仏つてな〜に」を基本姿勢としています。私たちが人として生きていく大切な礎となるようお釈迦さまの教、お念仏の教えを的確に、わかり易く語り、知っていたらこうと務めること。そしてそれを日々の暮らしの中に実践し、生かしていただくよう勤めること。実のところ、これは寺院で生まれ育った私自身、子供のころからの問いでした。

このようなわたしに浄土宗より欧州布教の重任をいただき、まさに大きなご恩を感じています。おかげ



2022年 花まつり

をもつて前述の問題と日々改めて真剣に向かい合うこととなっている。それと共に深い反省と後悔の念も生まれた。

こうして浄土宗ヨーロッパ仏教センターが創立され、10年以上にも活動が継続出来ていることは浄土宗、そして浄土宗各寺院のご理解、ご援助はもとより、故成田有恒台下、当協会一同の恩師、故真野龍海台下、そしてブラジル開教区の故佐々木陽明総監の心こもったお言葉、ご協力、信頼、そして当地メンバーの方々の大なるお力添えのおかげです。



2022年 お盆

改めて皆様に深く感謝、御礼申し上げます。

まさに仏の教えの中核、すべては、人は「量ることのできないおかげ」で生かされていることを実感しています。常々、海外での布教には欠かせない言語能力が私には不十分であると感じるがありました。しかし、現在はドイツ人で仏教、法然上人を深く信奉する協力者ができ、これからの活動展開に大いに期待しています。

参加される方々に浄土宗の方は少なく、いろいろな宗派の方がおり、キリスト教の方が訪れることもあります。お釈迦さま、お念仏の教に触れたいと思う方が誰でも来られるようにと開放しています。

さて2022年の〈仏教の集い〉の活動を述べます。恒例の新年初参り、挨拶、そしてお屠蘇をいただくという儀式を行う。2月の涅槃会…体調を崩し中止。3月お彼岸…ご先祖、亡くなられた方々を偲び、阿弥陀さまに相對してお念仏唱和。ドイツのビュドゲン光然開教使補と、そのメンバーと共にZOOM使用の合同法要会。4月の花まつり…他の行事とは異なり華やかなものになる。各々花御堂のプチブツダ像に甘茶をかける。本年は娘夫婦が幼子を連れて参加。5月…1



2022年 10月道場開眼式

時間のお念仏唱和。6月…再度体調を崩し中止する。7月…3、4年ぶりの当協会拠点での親睦BBQ。楽しく歓談。8月はお盆行事。皆さんと共に勤行をし、ご先祖のご回向を勤める。9月…彼岸会と勉強会。10月…2度開催。お念仏唱和と十夜法要会お念仏唱和、勉強会。12月是一年の反省と報恩感謝の法要を勤める。最近のパワーポイントをよく使用。とても重宝している。

参加の皆さんの念仏唱和、各々に目標をもたれ、体感のお念仏をされています。それは素晴らしいものです。パリだけでなく地方都市にもこのような〈仏教の集い〉を持ちたいと思っているが、未だ実現できていないので、その糸口を見出したいと思っています。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

十念寺の令和4年度振り返りと今後の展望

宮城県仙台市 十念寺

住職 伊東 秀眞

令和4年度の取り組みと反省

令和4年は十念寺にとって多くの変化と挑戦に満ちた一年となりました。大きな挑戦としては、当山でも浄土宗が取り組んでいる「介護者カフェ」を定期的に開催しはじめたことです。

現在のところ、介護者カフェが新しい信者や檀家の増加につながるといふ成果はないものの、参加いただいている地域のみなさまの期待を感じることができています。2カ月に一度の開催をしています

が、初回から必ず参加いただいている方や掲示板を通じて新規の参加者が増えていきます。少しずつではありますが、当山の地域での認知度も高まっているのではないのでしょうか。

介護は、いまやどんな人にも身近な問題となつていきます。介護にあたる人々、これから介護を受けるかもしれない人々に寄り添う活動を、周囲のみなさまのお力を借りつつ継続していきたいと考えております。

また、もうひとつの新しい取り組みとして7月より檀家信徒さまに「寺報」の郵送を開始いたしました。開山以来、ホームページでは月に2本のコラムを更新してまいりました。コラムの閲覧回数は着実に伸びていますが、檀家さま以外のアクセスがほとんどでした。そこで、檀家さまに当山の活動や、イベントの告知を寺報という形でお届けすることにいたしました。寺報では、仏さまや法然上人の教え、仏教の習わしなどをわかりやすく解説する記事を掲載してい



介護者カフェの様子

ます。お寺の情報発信もインターネットを使用する機会が増えていますが、中高年層が情報を受け取るのはまだまだ難しいと感じております。アナログではありますが、寺報で発信し続けることでより幅広い年齢層の方と交流ができるのではないかと考えております。今後は、檀家信徒さまからのご質問やおたよりを募るなどの取り組みを進めていく予定です。

一方で、活動が増える中で反省

すべき点も見つかりました。事務作業がおろそかになってしまった点は大きな課題として認識しています。介護者カフェの運営や寺報、ホームページの更新などの作業の効率化が課題です。寺院の運営については、諸先輩方のご意見やアドバイスを参考に早急に解決していきたいです。お寺の業務もDX化ができる部分は積極的に取り入れ、単純作業の効率化をし、対人的なやりとりを力を入れていく方向で現在検討中です。

また、忙しい日々の中で自身の健康や心のゆとりを後回しにしてきた一年でもありました。年齢を重ねることで、以前のような無理が利かないことを痛感させられました。これまで、がむしやらに取り組んできた点を反省して、今後は周囲の力を借りつつ計画的に寺院運営に携わっていきたいです。来年度は、周囲だけでなく、自身自身の心身の健康も顧みつつ、与えられた使命を全うしていきたいと考えています。



介護者カフェの様子

今後の展望

将来的な目標としては、宗教法人格の取得です。開教寺院にとって、大きな目標であり悲願でしょうが、新型コロナウイルスの影響で活動ができない期間が長く、当初の目標より遅れているような状況です。しかしながら、次回の面談時に数年先になるでしょうが、

取得見込みをお伝えしますと言うお話をいただいておりますので、今後も地道な活動を継続して参りたいと思います。やはり、檀家信徒さまをはじめ、地域にとって安定的かつ永続的な場を提供出来るよう努めて行きたいです。

また、予定されている年間行事を実施することも目標のひとつです。お彼岸、お盆、成道会、仏名会などの伝統的な仏教行事をはじめ、介護者カフェや終活セミナーなども継続して開催していきます。小さな目標かもしれませんが、コンスタントに活動を継続することで、檀家さまや地域の方々との関係をより深めていくことを期待しています。そして、もう一つの目標はお葬

式のあり方も提案していくことです。インターネット主体の葬儀社が普及したことで、地域の葬儀会社もお坊さんもマージンを抜かれて少なからず経済的な苦境に直面しているのではないのでしょうか？将来的な展望を見た際には、やはり現状としては由々しき事態であろうかと思っています。資本主義社会とは言え、インターネットを主体とする葬儀社は、自社では斎場を保有していない葬儀業界がほとんどで、マージンによって運営されています。利用する方にとっても、私達僧侶や地元の葬儀会社さんにとってもあまりにも負の面が大きいのではないかと考えます。このような状況を改善するため



東日本大震災慰霊法要 13 回忌



1 日目盆施餓鬼



お盆

に、小規模でシンプルながら心のこもったお葬式を当山でできるような環境を整えていくことを目標にしています。具体的には、お葬式のプランがわかりやすいwebページの制作や広告を出稿し、地域の方の葬儀選びの新しい選択肢として認知いただけるような活動を予定しています。

開山してからの歴史が浅い当山は、歴史的な建造物や仏教美術もなければ、地域の檀家さまもほとんどいない小さな寺院です。あるのは、仏教の教えだけというシンプルな寺です。だからこそ、仏教やお寺などから離れてしまった現代の人々と新しいつながりを作れるのではないかと考えています。来年もさまざまな挑戦をしつつ、一步一步前進していく所存です。

海外・国内開教使名簿

令和5年12月末日現在

海外開教区

		氏名	赴任寺院
ハワイ	開教総監	石川 広宣	ハワイ浄土宗別院・コロア浄土院・カパア浄土院
	開教使	高野 明宏	ハワイ浄土宗別院
		田邊 孝顕	ハワイ浄土宗別院
		江崎 晃司	ハレイワ浄土院
		宮寄 潤心	ヒロ明照院・カーチスタウン浄土院・ハカラウ浄土院
		ワジラワンサ舜爾	ハヴィ浄土院・コハラ浄土院
		原 源照	ラハイナ浄土院
		原 潮音	ワイルク浄土院・カフルイ浄土院
北米	開教総監	後根 定璽	北米開教本院・シカゴ浄土宗教会所
	開教使	田中 孝道	北米開教本院
南米	開教総監	佐々木 良法	マリンガ日伯寺
	開教使	稲場 明忠	南米浄土宗別院日伯寺
		山田 英規	南米浄土宗別院日伯寺
		櫻井 聡祐	イビウーナ日伯寺
		大江田 晃義	クリチバ日伯寺

オーストラリア開教地

	氏名	指定地域
主事	ウィルソン哲雄	クイーズランド州ブリスベン一円

フランス開教地

	氏名	指定地域
主事	高僧 光隆	パリ市一円

国内開教

国内開教地域	寺院名	国内開教使
宮城県仙台市泉区及び富谷市とその周辺	十念寺	伊東 秀眞

南米開教の過去と現在、 そして輝かしい未来に向けて

日 時 2022年10月26日(水)
午前9時から12時まで

会 場 大本山増上寺光摂殿
Web 会議システム「Zoom」併用

基調講演

長谷川匡俊師

大乘淑徳学園理事長／淑徳大学名誉教授／
長谷川仏教文化研究所所長／
浄土宗総合研究所客員教授／浄土宗大蔵寺住職

講演

藤森雄介氏

淑徳大学教授／同大学アジア国際社会福祉研究所／
アジア仏教社会福祉学術センター長／
浄土宗社会福祉専門部会委員

パネル発表

ファシリテーター：名和清隆師
本会企画委員／浄土宗総合研究所研究員

発表①

前田晃秀師（滋賀教区若王寺住職）

元南米開教使。赴任時のお話。

発表②

松野瑞光師・奥様の奈緒美氏

（長崎教区法源寺住職）

元南米開教使・開教助員。赴任時のお話。

発表③

奥 祐斉氏（株式会社 bona 代表取締役・オンライン コミュニティ「となり」主宰）

淑徳大学時代のブラジル研修の思い出と
その後の人生への影響等。

発表④

花井敏男氏（クリチバ日伯寺理事）

ブラジル日系人コミュニティの歴史と現状、お寺の大切さ。

発表⑤

大江田晃義師（クリチバ日伯寺主任開教使）

クリチバでの活動について。

第13回を迎える今回の開教公開カンファレンスでは「南米開教の過去と現在、そして輝かしい未来に向けて」というテーマを設け、大本山増上寺光摂殿において、オンラインを併用し南米開教区と繋ぎ開催した。

まず、基調講演として長谷川匡俊師より、「長谷川良信師のブラジル開教への思い」をテーマに講演が行われた。長谷川良信師は戦前期以来、ライフワークとして宗教・社会福祉・教育の三位一体

による人間開発・社会開発の展開を行い、63歳の時にブラジル開教を志願し渡伯を果たし、南米開教区初代開教総監となった。そして開教の拠点となる日伯寺は、地域社会の「文化福祉センター」としての形態をとり、コロナの真の発展のために奉仕したいという良信師の決意が、南米開教区の開教理念となる、「仏教（念仏）と社会福祉と教育との三位一体による人間開発・社会開発」へと結晶されてゆく

過程をお話いただいた。基調講演での話を受け、藤森雄介氏より「長谷川良信師の事跡におけるブラジル開教」としその後のブラジル開教事業の特徴がまとめられた。

パネル発表では、元南米開教区従事者3名からブラジル滞在時の体験談、続いて、淑徳大学ブラジル研修参加者から当時の思い出やその後の人生に活かされた経験談が話された。また当日は、オンラインで南米開教区と

繋ぎ、クリチバ日伯寺檀信徒代表者からブラジルにおけるクリチバ日伯寺の存在意義が話された後、現在クリチバで開教活動に従事する大江田開教使から開教活動の報告がなされた。

今回のカンファレンスでは、南米開教区の過去から現在へと続く理念の継承とその歴史や、南米開教区の未来に向けた展望を参加者と共に共有する機会となった。



公開カンファレンスの様子

會員名簿

原則として功績点付与者を掲載しています。

名誉会員
(所属は納入時)

【教区】組		【寺院名】		氏名	
青森	北	薬王寺	藏澤	豊彦	
山形	上	稱念寺	井澤	隆明	
宮城	下	本覚寺	長谷川	篤弘	
福島	第一	西方寺	大田田	博導	
茨城	中央	善導寺	中村	隆敏	
	常総	弘経寺	金田	冬彦	
東京	浅草	長壽院	北田	順也	
神奈川	小田原	道場院	都築	融光	
		春光院	石川	邦雄	
長野	更埴	光林寺	西澤	一眞	
	諏訪	来迎寺	服部	徳瑞	
三河	豊川	上善寺	高木	孝顯	
	岡崎	大光院	木村	良成	
尾張	岡北	大樹寺	中村	康雅	
岐阜	城北東	西林寺	加藤	孝爾	
石川	赤坂	淨園寺	石川	一宣	
滋賀	浅野川	玄門寺	浅井	一朗	
京都	湖南	西方寺	牧	達玄	
大阪	鴨阪	長安院	若菜	俊夫	
	相模	一心寺	山口	恭行	
	磐瀨	観音寺	高田	祥隆	
兵庫	泉南	西教寺	鶴田	幹夫	
	武崎	観音寺	池上	昭信	
福岡	摂陽東	大林寺	木下	達雄	
	宗像	教安寺	橋本	定雄	

賛助会員
(所属は納入時)

[illegible]

東京	芝	城西	江東	浅草	城北	北部	千葉	葛南	神奈川	港北	三浦	鎌倉	高座	山梨	新潟	富山	長野	静岡	三河	尾張	伊賀	石川	滋賀																																		
芝	心光院	梅窓院	西光寺	廣大寺	泰寿院	九品院	満光寺	法問寺	大念寺	大嚴寺	東明寺	正行寺	大光院	泰山崩	清林寺	宗仲寺	不斷寺	十劫寺	養安寺	正覺寺	大栄寺	西願寺	大泉寺	西德寺	兼西	若林	梅原	長原	聖彦	康世	信一	德瑞	俊昭	義昭	英明	北山	中村	吉田	悦明	正道	八木	村浦	長善寺	宝泉院	建中寺	自然院	正覺寺	念佛寺	妙慶寺	屋敷	上野	城北	甲賀	神埼	甲賀	湖南	天津
鈴木	中島	亮成	真順	豐明	正彦	雅雄	達人	智仁	昭祐	銘木	鈴木	吉岡	白石	宮林	柴田	渡邊	平野	宮澤	杉浦	吉水	大辻	山口	吉田	長原	梅原	若林	兼西	服部	鶴谷	鶴飼	北山	中村	吉田	悦明	正道	八木	村浦	長善寺	宝泉院	建中寺	自然院	正覺寺	念佛寺	妙慶寺	屋敷	上野	城北	甲賀	神埼	甲賀	湖南	天津					
成男	亮成	真順	豐明	正彦	雅雄	達人	智仁	昭祐	銘木	鈴木	吉岡	謙祐	了泰	匡俊	雄彦	哲彦	仁司	善清	定徳	良周	正明	隆正	吉田	善政	長原	聖彦	康世	信一	德瑞	俊昭	義昭	英明	北山	中村	吉田	悦明	正道	八木	村浦	長善寺	宝泉院	建中寺	自然院	正覺寺	念佛寺	妙慶寺	屋敷	上野	城北	甲賀	神埼	甲賀	湖南	天津			

京都	大宮	嵯峨	第一	奈良	和歌山	大阪		兵庫	鳥取	岡山	広島	山口	福岡	長崎
大宮	八幡	嵯峨	丹後	念聲寺	第五	相模	東清堀	神戶	因幡	笠岡	西部	周西	宗像	五島
専故院	観音寺	正定院	松林寺	念佛寺	称名院	龍泉寺	本伝寺	淨福寺	安樂寺	真教寺	戒善寺	正行寺	教安寺	悟眞寺
澤田	小嶋	森田	牛田	上野	志野	藤堂	岡崎	浅野	曾和	永井	高雄	原田	橋本	津津
裕樹	文明	一応	法俊	雄宏	寛紹	俊隆	俊明	論稔	義雄	廣道	巖生	戒城	惠哲	貫隆

正会員（所属は納入時）

令和3年4月1日～令和4年3月31日

「教区／組」

〔寺院名〕
〔氏名〕

岩手											青森											北海道第二											北海道第一
	盛岡	上北	東青	北			弘南	北	南			西	小樽	室蘭	函館																		
圓光寺	大泉寺	光明寺	平安寺	淨満寺	称光寺	海満寺	葉王寺	善導寺	願昌寺	專稱院	德増寺	貞昌寺	慈教寺	定住寺	方田寺	北泉岳寺	阿弥陀寺	龍雲寺	菩提寺	長專寺	大松寺	誓願寺	新善光寺	浄土寺	報恩寺	仙海寺	仙海寺	満岡寺	稱念寺	豊國寺	称名寺		
加藤	鈴木	築田	葛西	工藤	成田	三上	大屋	秋谷	小山	熊谷	間山	嶋中	石川	周田	皆上	松岡	片山	丸山	若木	高橋	北見	福田	小山	渡部	藤井	大高	石上	及川	飯島	佐藤	井上	高橋	
光順	篤雄	成義	満永	量導	憲信	英淳	豊彦	昇龍	惠逸	和行	泰人	法導	英哉	大佑	俊久	泰信	瑞翔	淨教	祐之	宗憲	祥隆	眞琴	孝道	徳史	乗亮	有光	源應	聖光	曉樹	龍明	昌宏		

			栃木			群馬			福島			宮城			山形 秋田					
宇都宮	見北	下都賀	足利	館林	太田	前橋	吾妻	中央	湊通り	第六	第三	第二	第一	鶴岡	山形	置賜	県南	気仙	花巻	
清嚴寺	高聲寺	吞龍寺	法玄寺	神光寺	長念寺	雲晴院	善福寺	大安寺	満藏寺	往生寺	浄土寺	愚鈍院	昌繁寺	常念寺	實相寺	常光寺	淨蓮寺	淨土寺	廣隆寺	善導寺
樋口	佐藤	松澤	和田	宮本	稲村	茂木	天野	日塔	加藤	豊嶋	中澤	中村	佐藤	渡邊	鬼海	佐藤	高橋	菅原	谷地	黒沢
良弘	俊謙	孝佳	幸信	美江	博道	恵順	昌秀	徳裕	正典	弘賢	瑞俊	龍樹	純也	成就	明珠	一彦	信隆	英道	隆光	玄智
																				茨城
			第四			第三			第二			第一			猿島			常総		
蓮光寺	東源寺	西運寺	勝願寺	深廣寺	淨信寺	神宮寺	清光院	聖泉寺	圓福寺	眞福寺	林西寺	源光寺	報土院	淨捷寺	相頓寺	長連寺	眞福寺	源長寺	常福寺	大信寺
齊藤	押野	島田	藤田	石垣	石田	本間	今井	峯山	池田	熊井	川端	里見	町田	席邊	和氣	太田	加藤	小林	渡邊	樋口
義宏	孝道	祐孝	得三	正順	浩臣	直人	照明	達雄	常臣	知仁	清光	純庸	唯真	文有	昭祐	良哲	忠雄	良明	昭彦	清行
																				東京
八王子			玉川			北部			城北			浅草			江東			豊島		
林海庵	養蓮寺	大昌寺	慶岸寺	淨眞寺	淨眞寺	光増寺	西門寺	淨正寺	淨正寺	瑞泉寺	保元寺	玉蓮院	善徳寺	泰寿院	誓教寺	源空寺	權寺	法林寺	龍寶寺	神田寺
笠原	田中	杉浦	佐藤	清水	清水	栗原	島崎	澤	多賀谷	多賀谷	一瀬	鈴木	榎本	大谷	角岡	日比野	窪川	窪川	友松	西城
泰淳	光成	靖俊	健仁	大悟	将彦	英碩	慎雄	義宣	友芳	智繁	裕輔	雄善	豊彦	堯正	里司	郁皓	和順	浩志	宗隆	亮順
																				千葉
			更埴			長野			新川			水波			山梨			甲府		
三宝寺	三宝寺	普光寺	正福寺	延命寺	善導寺	法學寺	静松寺	往生寺	圓通院	十念寺	十念寺	十念寺	專光寺	西願寺	大念寺	曼陀羅寺	善導寺	高田寺	養安寺	善光寺
伊東	伊東	山野	笠井	竹内	吉水	古田	丸山	水野	新出	祐山	祐山	祐山	村井	長井	小林	眞岸	常川	石川	大辻	吉原
靖順	基晴	正樹	雅裕	耕真	里香	幸隆	智順	順雄	善文	榮祐	榮輝	榮史	悦史	善政	照人	勝彦	秀祐	隆善	優人	賢雄
																				神奈川
三河			静岡			伊那			諏訪			松本			佐久			上小		
豊橋	静岡	清水	東駿	南豆	伊那	諏訪	伊那	静松寺	往生寺	圓通院	十念寺	十念寺	專光寺	西願寺	大念寺	曼陀羅寺	善導寺	高田寺	養安寺	善光寺
栄昌寺	宝台院	法岸寺	林昌寺	海善寺	浄久寺	念通寺	柏心寺	峯高寺	真光寺	法蔵寺	法蔵寺	高松寺	林昌寺	西向寺	西蓮寺	宗安寺	願行寺	西念寺	大英寺	西念寺
寺田	野上	嶋飼	安藤	兼子	官原	下平	安藤	篠田	小口	近藤	法我	隆晴	隆弘	眞教	酒井	若藤	藤倉	鎌倉	倉崎	泰和
恒文	智徳	義昭	亨臣	光男	達運	澄瑞	秀祐	秀祐	秀祐	秀祐	秀祐	秀祐	秀祐	秀祐	秀祐	秀祐	秀祐	秀祐	秀祐	秀祐

尾張 伊勢 伊賀 岐阜																																										
東濃		高山	高須	赤坂	大垣	岐阜	河合	松坂	名古屋	西尾	碧海	碧北	豊田	岡崎	御津	渥美																										
医王寺	大雄寺	林照院	圓心寺	安養寺	淨林院	回向院	圓通寺	阿弥陀寺	山上院	正道院	樹敬寺	自然院	香蓮寺	緣心寺	清淨院	願行寺	攝取院	行福寺	法雲寺	性源寺	弘誓院	蓮馨寺	善入院	三光院	閑通寺	大恩寺	神泉寺	長谷寺	大聖寺	養福寺	明光寺	光輝院	淨泉寺	最勝院	西福寺	延命寺	光明寺	上善寺	大善寺	城寶寺	香福寺	清源寺
佐古	田中	佐藤	松濤	戸田	徳田	大橋	松野	颯田	淺野	関川	柴田	山下	秦	川合	住田	倉橋	木村	伊藤	水谷	安西	秋田	青木	岡田	鈴木	永谷	中島	松坂	植村	立松	鈴木	神谷	林	神谷	村瀬	黒野	大高	高木	立松	橋村	天野	鳥山	黒野
康祥	玄真	叡觀	大乘	弘樹	眞一	隆成	隆史	隆義	眞義	隆導	法彦	正雄	智宏	賢祐	和章	了稔	貞賢	信道	大伸	保承	文雄	信善	恵空	健祐	博道	教英	昌康	幸融	純哉	康輝	淨哉	志宏	嘉則	裕哉	昌寛	隆見	孝徳	真我	泰彦	信孝	道彦	英隆

京都																												滋賀				福井		石川																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
鴨川																												大津				湖南		甲賀				野洲		蒲生第三		蒲生第二		蒲生第一		神崎		坂井		能登		淺野川																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
西方寺	信行寺	大光寺	正行寺	清光寺	正念寺	正往寺	正傳院	願海寺	西福寺	西蓮寺	善住寺	雲住寺	西光寺	西念寺	清光寺	永仙寺	淨觀寺	称名寺	長徳寺	地藏院	浄土寺	若王寺	溪蓮寺	溪蓮寺	眞明寺	正福寺	源福寺	安樂寺	法恩寺	嚴淨寺	蓮光寺	蓮光寺	蓮光寺	善法寺	淨栄寺	吉祥院	西光寺	西光寺	玄門寺	寶幢寺	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高田	高

城安寺	来迎院	大蓮寺	西昌寺	光安寺	淨源院	永運院	勢至院	本光院	高樹院	三緣寺	阿弥陀寺	長源寺	淨念寺	心光院	西福寺	照臨院	龍泉院	瑞泉院	顯岑院	清賢院	福藏寺	禪法寺	養源院	瑞林院	壽仙院	琢窓院	光福寺	長徳寺	常林寺	正定院	上善寺	西園寺	慈福寺	光明寺	婦白院	圓通寺	良樹院	龍泉院	定信院	善導寺	檀王法林寺	金臺寺	專稱寺	大恩寺
服部	竹村	芳井	堀池	杉山	安井	土肥	豊原	竹本	勝田	藤田	富田	村橋	大矢	齋藤	城戸	井上	白寄	本庄	渡邊	上野	河合	伊藤	坪井	板倉	木村	福原	大野	高田	岡	藤堂	佐々木	宮口	江藤	小林	小川	信原	小田	朽木	勤息	義照				
智章	良順	教哉	昌実	俊定	雅純	真司	宏隆	光昭	隆範	良樹	典隆	尚隆	邦彦	明香	蒙光	正憲	昌紀	学成	良英	真教	公嗣	孝雄	真人	祐世	敬祥	道彦	隆昌	純香	徹心	貴雄	稔道	政俊	俊英	仲介	龍雄	泰之	英久	隆宏	雅文	芳寿	智信			

大宮																				京極																								
聖徳寺	成道院	西方寺	妙嚴院	称念寺	如来寺	正運寺	成円寺	專徳寺	善想寺	西念寺	浄心寺	信重院	入信院	良正院	松宿院	青龍寺	西光寺	安祥院	隆彦院	正林寺	喜運寺	洞雲寺	念佛寺	称名寺	浄雲寺	念佛寺	極樂寺	新善光寺	本覚寺	浄国寺	永養寺	空也寺	勝圓寺	聖光寺	透玄寺	浄教寺	春長寺	天性寺	正覚寺	光徳寺	稱名寺	常光院	生蓮寺	稱名寺
関	山川	大橋	吉水	恒川	奥村	卷山	杉浦	宮田	青木	高津	村山	藤堂	鈴木	細井	岸村	篠原	鳴瀧	加藤	梅辻	古澤	佐藤	田宮	釋	佐藤	廣兼	釋	相村	志水	當麻	石井	石井	神谷	後藤	光山	塩竈	當麻	土方	三縁	岡見	梶田	鈴木	梅木	介隆	
良法	成幸	俊光	忠雄	良昭	光祥	光昭	正明	宗典	伯積	海尊	祐純	俊生	宏俊	晶三	行雄	泰雅	素道	浩則	伸行	瑞記	祐念	友博	淳孝	良正	尚博	恒彦	久純	章英	俊之	輝明	正道	真淳	克明	公毅	義啓	友寛	了彦	勝弘	弘道	大介	昌也	昌也		

一条

五劫院	福寿院	浄円寺	松原寺	地藏院	成願寺	國生寺	報土寺	隨念寺	親縁寺	護念寺	智恵光院	淨福寺	善福寺	瑞雲院	石像寺	浄光寺	超勝院	永寿院	報恩寺	招善寺	吟松寺	宗蓮寺	西向寺	玄忠院	慶善寺	寶藏院	高山寺	香林寺	広見寺	冷聲院	地藏寺	福元院	西方寺	稱名寺	極樂寺	福田寺	龍岸寺	大泉寺	西岸寺	長圓寺	法宣寺	正法院	月輪寺
岩城	大河内	水谷	伊藤	藤井	塩見	藤原	澤崎	西	菅原	荒木	志木	廣隆	森野	岩田	大橋	吹田	土屋	林	榊原	恒川	稲岡	福岡	白旗	主悟	俊光	智誠	哲雄	敏和	眞恒	弘憲	成彦	龍法	隆教	慈浄	恵介	稔雄	尚生	恵心	恵心				
隆宏	良治	俊之	正示	史郎	幹也	幸治	利章	弘明	邦光	好規	淨芳	智隆	弘也	融典	憲宏	隆道	眞匡	裕紹	孝道	裕規	憲雄	良嗣	丈嗣	主悟	俊光	智誠	哲雄	敏和	眞恒	弘憲	成彦	龍法	隆教	慈浄	恵介	稔雄	尚生	恵心	恵心				

洛南																				伏見																								
永福寺	三縁寺	浄貞院	阿弥陀寺	海徳寺	恵光院	戀塚寺	一念寺	誓祐寺	是住院	願生寺	光傳寺	寶圓寺	龍源寺	西運寺	浄雲寺	西岸寺	阿弥陀寺	松林院	来迎寺	大蓮寺	大信寺	西光寺	三寶寺	勝念寺	光月院	栄運院	正法寺	常念寺	光照寺	観音寺	常泰寺	誠心寺	蓮乗寺	常安寺	攝取院	観音寺	竹林寺	西正寺	松林寺	浄篤院	成等院	祐正寺	勝巖院	善福寺
水谷	水谷	松尾	三輪	平	長川	安藤	高木	菱田	山口	徳山	山中	木村	小坂	羽田	森	岩井	山村	藤原	光成	宮田	五島	吉水	松葉	林	井畑	羽田	澤田	池上	大河	前澤	井上	登田	田村	松葉	山下	浦田	澤崎	月澤	山田	石橋	五島	立田	前田	
正人	正人	浩亮	正仁	祐朋	周豊	和彦	元興	俊弘	貞博	久夫	隆央	隆央	義弘	淳弘	法寿	慶信	正道	太郎	弘憲	輝道	典彦	忠住	昭彦	俊明	雅清	龍也	寛成	良賢	正康	泰宏	泰信	正樹	昌典	健斗	裕人	芳誠	真照	直樹	要津	欽学	尚楓			

八幡																							宇治																				
妙蓮寺	極樂寺	光福寺	安養寺	称名寺	観音寺	華臺寺	浄安寺	専念寺	圓福寺	迎接寺	西光寺	光念寺	来迎寺	正光寺	阿弥陀寺	蓮台寺	福王寺	浄音寺	阿弥陀寺	因性寺	安養寺	金品寺	西方寺	西導寺	願行寺	正覚院	惠福寺	西方寺	唯心寺	福王寺	極樂寺	福應寺	西樂寺	大圓寺	宝迎寺	西念寺	光照寺	法泉寺	常念寺	大林寺			
原口	西田	神居	山田	稲田	前田	織田	山路	平岡	平岡	石丸	坂本	林	松岡	小川	漆間	横井	松永	福田	法澤	宮本	高田	吉水	雲居	藤原	盛田	高志	寺川	光成	正木	吉水	佐藤	高田	八幡	佐藤	河合	徳山	小林	白旗	山本	野田	本多	館	木本
善弘	浩幸	伸行	祥淳	泰雄	大祐	敏嗣	芳範	信亮	信亮	廣道	賢司	源道	泰行	正弘	高志	桂俊	隆定	篤信	真弓	秀樹	真澄	了孝	悠記	常明	孟寛	崇道	聰真	龍親	真弓	光一	文宏	雅雄	和彦	浩輝	文雄	博之	廣賢	弘道	弘昭				

嵯峨										南城										相楽																						
正定院	阿弥陀寺	西光寺	往生院	導放院	爲因寺	慰稱寺	導行寺	袋中菴	大龍寺	淨光寺	正覺寺	西福寺	安樂寺	西生寺	深廣寺	極樂寺	長福寺	宝国寺	觀音寺	地藏院	瑞泉寺	安養寺	長光寺	念仏寺	弘願寺	三縁寺	阿弥陀寺	極樂寺	極樂寺	極樂寺	光照寺	念仏寺	長泉寺	應源寺	西願寺	長福寺	薬師寺	阿弥陀寺	西念寺	西方寺	想念寺	十輪寺
森	長澤	木村	吉田	秋田	成田	大田	三縁	鈴木	賀郷	山根	佐々木	石津	平尾	河合	青木	西村	登田	井上	松山	喜早	森	山田	伊東	井上	板倉	徳光	根来	大塚	川添	家田	西山	三田	大野	小松	梶浦	國子	山口	大木	唐井	加藤		
一哉	慈香	信哉	大治	正善	敬俊	信弘	泰雄	稱圓	英亮	雄俊	良絃	幸次	昌隆	信祐	秀應	静夫	良樹	泰明	昌夫	裕康	信定	有浩	祥淳	孝祐	玄英	順孝	明人	從道	隆善	光信	精司	宏壽	妙瑞	光瑠	英善	慶弘	雄順	純正	隆圭	章善		

相 加 第 第 第										丹 船										龜																							
阪 妻 有 十 八 七 六										後 桑										岡																							
壽法寺	西連院	法善寺	源正寺	龍泉寺	稱名寺	樂音寺	興院	阿日寺	常谷寺	極樂寺	本願寺	常立寺	寶嚴寺	西光寺	長徳寺	榮照院	聖徳寺	天然寺	松林寺	浄仙寺	浄土寺	法鷲寺	安樂寺	浄欣寺	願生寺	教傳寺	大恩寺	晴明寺	常福寺	念佛寺	專念寺	西光寺	極樂寺	浄福寺	小松寺	直指庵	円覺寺	念佛寺	称念寺	薬師寺	法然寺	徳林寺	
川村	飯田	山下	中村	神田	田中	良田	出口	川中	大橋	細川	紀氏	紀氏	柴山	小野	羽瀨	森本	山本	小川	大野	牛田	古寺	中島	嵐	田中	加藤	田中	小泉	奥田	真田	北元	横田	大澤	渡邊	平塚	前田	井上	小田	上田	原	半田	安藤	久松	内藤
義樹	順雅	良寛	暢時	眞晃	秀人	芳道	芳演	光教	章孝	文明	正明	正明	康彰	泰淳	貞良	照教	明生	光景	正道	法俊	忠夫	和広	典弘	賢祐	辰文	賢祐	範幸	大信	原行	明教	良生	久士	亮我	昌彦	秀範	清志	芳隆	忠裕	善應	博雄	秀幸	峻道	泰士

天満										東清堀										西清堀										生玉										大江									
源光寺	提法寺	西福寺	法界寺	妙香院	蟠龍寺	冷雲院	奥之坊	九品寺	長徳寺	大信寺	大隆光寺	天乳寺	心眼寺	大應寺	洞泉寺	大善寺	誓安寺	誓福寺	天性寺	實相寺	念佛寺	源光寺	西光院	大雲寺	大雲寺	光聖寺	法泉寺	圓通寺	光善寺	大善寺	増福寺	銀山寺	幸念寺	西照寺	善福寺	光明寺	金臺寺	浄光寺	哀愍寺	大圓寺	安樂寺	極樂寺	見性寺						
藤野	小林	松浦	服部	豊川	谷田	奥村	松田	増山	川俣	増山	川俣	上	橋本	岩崎	山崎	日比	小川	萱野	得田	西田	亀井	金澤	杉原	江崎	横瀬	安達	戸井	西島	柴田	正木	長谷	相原	津留	秋田	片岡	義彦	雅勝	井桁	齊藤	家田	伊藤								
立徳	忠和	可一	寛雄	佳久	探成	皇圓	恵三	純三	隆英	善隆	順浩	博嗣	浩基	忠之	章裕	清彦	克實	裕昭	哲也	利治	正悟	融志	光哉	隆雄	啓瑞	泰史	隆玄	真尚	唯元	順慈	正孝	義宣	光彦	雅弘	雄勝	善之	隆紹	真宏											

			東 摂			北 摂			河 北			第 河 南			泉 北		
寿松院	西念寺	理安寺	清蓮寺	興樂寺	常福寺	淨福寺	法住寺	長樂寺	考圖寺	淨国寺	安樂寺	西觀寺	法藏寺	慧光院	淨土院	臺鏡寺	一乘寺
小原	中川	杉山	嶋村	川久保	小林	渡辺	飯田	西田	磯部	秦	秦	秦	秦	富永	山北	真田	西浦
法信	泰伸	俊定	順功	元明	知廣	章道	海昭	俊昭	雅彦	隆齊	博文	稔和	有豊	光彦	琢也	道哉	榮達
			心福寺			大泉寺			西福寺			光明寺			正覚寺		
梨原	大橋	横井	横井	西田	佐藤	野口	信	信	安養寺	法然寺	浄泉寺	善性寺	法福寺	東極楽寺	浄福寺	順成寺	順成寺
三良	信雅	貴光	俊道	元光	英州	聖瑞	憲雄	雄雄	雄雄	雄雄	郁夫	常雄	隆啓	孝之	正運	賢時	論稔
			安樂寺			西光寺			眞光寺			法藏寺			光明寺		
曾和	高倉	藤井	伊藤	齊藤	増田	平松	三木	塩竈	西光寺	西明寺	觀音寺	杜若寺	杜若寺	杜若寺	杜若寺	杜若寺	杜若寺
義雄	和英	敏光	眞宏	祥行	光順	幹郎	正道	義篤	龍雲	眞宏	眞宏	眞宏	眞宏	眞宏	眞宏	眞宏	眞宏
			益田			特別寺院			美作			岡山			廣 島		
光明寺	漆間	安田	服部	桑島	漆間	漆間	漆間	漆間	漆間	漆間	漆間	漆間	漆間	漆間	漆間	漆間	漆間
本行	田	智	大智	常信	正伸	正樹	寛一	寛一	寛一	寛一	寛一	寛一	寛一	寛一	寛一	寛一	寛一
			宗像			柏屋			福岡			佐 賀			長 崎		
円安寺	教安寺	橋本	寛原	定胤	寛昭	憲祐	憲祐	憲祐	憲祐	憲祐	憲祐	憲祐	憲祐	憲祐	憲祐	憲祐	憲祐
寛原	寛原	寛原	寛原	寛原	寛原	寛原	寛原	寛原	寛原	寛原	寛原	寛原	寛原	寛原	寛原	寛原	寛原
			熊 本			大 分			三 州			鹿 児 島			福 岡		
大信寺	西方寺	原口	佐藤	恒教	幸典	俊哲	一平	亮信	亮信	亮信	亮信	亮信	亮信	亮信	亮信	亮信	亮信
原口	原口	原口	原口	原口	原口	原口	原口	原口	原口	原口	原口	原口	原口	原口	原口	原口	原口
			浄土寺			浄土寺			浄土寺			浄土寺			浄土寺		
浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺
浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺	浄土寺

浄土宗開教振興協会役員名簿

令和5年12月末日現在

役職	氏名	教区	所属寺院
会 長	川中 光教		
理 事	井上 歩導	北一	稱念寺
	武田 眞和	岩手	吉祥寺
	高橋 誠実	東京	無量寺
	山下 法彦	伊勢	樹敬寺
	吉田 悦應	福井	大寶寺
	山北 光彦	大阪	慧光院
	工藤 純裕	鳥取	誓願寺
	樋口 英信	福岡	長徳寺
	秋谷 昇龍	青森	善導寺
	杉山 俊明	千葉	浄國寺
	松野 瑞光	長崎	法源寺
	新谷 仁海	東京	功德林寺
監 事	前田 晃秀	滋賀	若王寺
	永江 憲昭	福岡	一心寺
	土屋 正道	東京	観智院
	中村 在徹	愛媛	浄念寺

■個人情報につき、お取り扱いには慎重にお願いします。

1 支援事業

①海外開教区・開教地への支援

■申請に基づき助成金を交付

- 1. 北米開教区 ―――― 総本山知恩院版
「法然上人御法語」英訳本の製作
- 2. オーストラリア開教地 ― 七五三法要実施のための
千歳飴購入
- 3. フランス開教地 ――― 白木位牌購入

②国内開教地域への支援

■教化資料費助成

次の指定地域に対し指定解除までの期間、申請に基づき
教化資料購入のための助成金を交付

- ・宮城県仙台市泉区及び富谷市とその周辺
十念寺 伊東 秀真 師（国内開教使2期目）

2 推進事業

■第13 回開教公開カンファレンスの開催

- ・日 時 ― 令和4年10月26日(水)
午前9時30分から午後零時
- ・会 場 ― 大本山増上寺 光摂殿 ※Zoom 使用
- ・テ ― マー 南米開教区の過去と現在、
そして輝かしい未来に向けて
- ・基調講演 ― 長谷川 匡俊 師（大乗淑徳学園理事長）
藤森 雄介 氏（淑徳大学教授）
- ・参加人数 ― 60 名

3 出版事業

- ・開教振興協会会報『開教』第40号発行 7,500部
- ・『Pure Land Life』（英語版）第36号発行 2,200部
- ・『Honen』（英語版）第4号発行、第5号発行 各2,200部

4 教化資料支援

- ・『浄土宗月訓カレンダー』ポルトガル語版
南米開教区 3,500部
※データを日本で作成後、南米開教区にて印刷・製本
- ・『浄土宗月訓カレンダー 2022年版』
ハワイ開教区 405部 北米開教区 320部
オーストラリア開教地 100部 フランス開教地 31部
- ・『浄土宗宝暦 2022年版』
ハワイ開教区 25部 北米開教区 50部
オーストラリア開教地 100部 フランス開教地 31部

5 勧募事業

■南米開教区クリチバ日伯寺本堂建立事業

※勧募入金状況（2023年5月中旬） 68,777,825円

6 会費取りまとめ教区

■本年度より会費取りまとめ納入教区にのみ
教区報奨金（取りまとめ数 × 1,000 円）を交付予定

- ※取りまとめ教区：19教区（1組含む）
北海道第一、北海道第二、岩手、埼玉、富山、三河、
尾張、岐阜、京都、和歌山、大阪、兵庫、石見、岡山、
愛媛、福岡、長崎、大分、長野教区更埴組

7 会員数（令和5年3月末日現在）

令和4年度 正会員961名

オーストラリア・フランス開教地へ

〔金額〕 一〇〇、〇〇〇円
〔寺院名〕 林海庵
〔氏名〕 笠原泰淳

〔教区〕 東京 八王子 〔組〕

令和4年4月1日～令和5年3月31日

指定寄付納入者（所属は納入時）

令和4年度 浄土宗開教振興協会歳入歳出決算書

令和4年4月1日～令和5年3月31日

基本資金部【歳入の部】

(単位：円)

款 項	目	節	令和4年度 予算額	令和4年度 決算額	予算額との 比較増減	摘要
1.	繰越金		134,010,000	134,010,000	0	令和3年度末の積立金額
	1. 前年度繰越金		134,010,000	134,010,000	0	
	1. 前年度繰越金	1. 前年度繰越金	134,010,000	134,010,000	0	
	1. 前年度繰越金	1. 前年度繰越金	134,010,000	134,010,000	0	
2.	会費		0	0	0	
	1. 特別会費		0	0	0	
	1. 名誉会員	1. 名誉会員会費	0	0	0	
	2. 賛助会員	1. 賛助会員会費	0	0	0	
3.	返済金		23,000,000	30,000,000	7,000,000	南米クリチバ日伯寺事業
	1. 貸付金返済		23,000,000	30,000,000	7,000,000	
	1. 貸付金返済	1. 国内開教指定寺院貸付金返済金	0	0	0	
		2. 開教区貸付金返済金	23,000,000	30,000,000	7,000,000	
4.	繰入金		0	0	0	
	1. 運用資金部繰入金		0	0	0	
	1. 運用資金部繰入金	1. 運用資金部繰入金	0	0	0	
	1. 運用資金部繰入金	1. 運用資金部繰入金	0	0	0	
歳 入 合 計			157,010,000	164,010,000	7,000,000	

基本資金部【歳出の部】

(単位：円)

款 項	目	節	令和4年度 予算額	令和4年度 決算額	予算額との 比較増減	摘要
1.	貸付金支出		20,000,000	0	△ 20,000,000	北米移転事業（2千万）事業未執行
	1. 貸付金支出		20,000,000	0	△ 20,000,000	
	1. 貸付金支出	1. 奨学貸付金	0	0	0	
		2. 開教区貸付金	20,000,000	0	△ 20,000,000	
		3. 国内開教貸付金	0	0	0	
		4. 運用資金部貸付金	0	0	0	
2.	予備費		114,010,000	0	△ 114,010,000	
	1. 予備費		114,010,000	0	△ 114,010,000	
	1. 予備費	1. 予備費	114,010,000	0	△ 114,010,000	
	1. 予備費	1. 予備費	114,010,000	0	△ 114,010,000	
歳 出 合 計			134,010,000	0	△ 134,010,000	

本年度基本資金部の歳入総額は、¥164,010,000 である

本年度基本資金部の歳出総額は、¥0 である

したがって、¥164,010,000 を翌年度に繰り越す措置を取る

内 訳	基本資金積立金	¥164,010,000
	貸付金	¥0
	繰越金	¥164,010,000

運用資金部【歳入の部】

(単位：円)

款 項	目	節	令和4年度 予算額	令和4年度 決算額	予算額との 比較増減	摘要
1.	会費		10,000,000	9,300,000	△ 700,000	会員 930 名
	1. 正会員会費		10,000,000	9,300,000	△ 700,000	
	1. 正会員会費	1. 正会員会費	10,000,000	9,300,000	△ 700,000	
	1. 正会員会費	1. 正会員会費	10,000,000	9,300,000	△ 700,000	
2.	寄付金		30,150,000	61,997,000	△ 31,847,000	2 開教地 南米クリチバ日伯寺事業
	1. 寄付金		30,150,000	61,997,000	△ 31,847,000	
	1. 特別寄付金	1. 一般寄付金	50,000	10,000	40,000	
		2. 指定寄付金	100,000	100,000	0	
	2. 勸募寄付金	1. 勸募寄付金	30,000,000	61,887,000	△ 31,887,000	
3.	財産運用		4,000	830	3,170	
	1. 資金運用		4,000	830	3,170	
	1. 預貯金利子	1. 基本資金利子	3,900	710	3,190	
		2. 運用資金利子	100	120	△ 20	
4.	雑収入		0	0	0	
	1. 雑収入		0	0	0	
	1. 諸収入	1. 諸収入	0	0	0	
	1. 諸収入	1. 諸収入	0	0	0	
5.	繰越金		17,442,532	17,442,532	0	令和3年度会計より
	1. 繰越金		17,442,532	17,442,532	0	
	1. 繰越金	1. 繰越金	17,442,532	17,442,532	0	
	1. 繰越金	1. 繰越金	17,442,532	17,442,532	0	
歳 入 合 計			57,596,532	88,740,362	△ 31,143,830	

運用資金部【歳出の部】

(単位：円)

款 項	目	節	令和4年度 予算額	令和4年度 決算額	予算額との 比較増減	摘要
1.	事業費		10,000,000	5,345,952	△ 4,654,048	
	1.	支援及び推進費	7,200,000	3,347,179	△ 3,852,821	
		1. 事業支援費				
		1. ハワイ開教区事業費	0	0	0	
		2. 北米開教区事業費	1,000,000	1,005,979	5,979	「法然上人御法語」英訳本の製作
		3. 南米開教区事業費	0	0	0	
		4. 海外開教地事業費	600,000	37,179	△ 562,821	教化活動に係る物品購入
		5. 国内開教指定地域	100,000	100,000	0	教化資料支援費
		2. 事業推進費				
		1. 広報事業費	1,500,000	778,142	△ 721,858	開教カンファレンス等
		2. 企画調査費	600,000	0	△ 600,000	現地調査、新規事業企画等
		3. 勧募事業費	3,400,000	1,425,879	△ 1,974,121	南米クリチバ日伯寺事業
	2.	出版費	800,000	678,370	△ 121,630	
		1. 会報発行費				
		1. 開教発行費	800,000	678,370	△ 121,630	『開教』第40号
	3.	教化資料費	2,000,000	1,320,403	△ 679,597	
		1. 教化資料費	2,000,000	1,320,403	△ 679,597	『Pure Land Life』第36号、 『Pure Land Life』第4・第5号、カレンダー
2.	寄付金		30,100,000	61,987,000	31,887,000	
	1.	寄付金	30,100,000	61,987,000	31,887,000	
		1. 特別寄付金				
		1. 指定寄付金	100,000	100,000	0	指定寄付金の支出
		2. 勧募寄付金				
		1. 勧募寄付金	30,000,000	61,887,000	31,887,000	南米クリチバ日伯寺事業
3.	会議費		3,090,000	1,801,141	△ 1,288,859	
	1.	会議費	3,090,000	1,801,141	△ 1,288,859	
		1. 会議費				
		1. 理事会	1,400,000	1,081,341	△ 318,659	2 回開催 旅費その他
		2. 常務理事会	600,000	150,240	△ 449,760	1 回開催 旅費その他
		3. 監査会	90,000	101,620	11,620	1 回開催 旅費その他
		4. 企画委員会	1,000,000	467,940	△ 532,060	5 回開催 旅費その他
4.	事務費		1,000,000	424,986	△ 575,014	
	1.	事務費	800,000	424,986	△ 375,014	
		1. 事務費	800,000	424,986	△ 375,014	郵便発送費／振込手数料
	2.	渉外費	200,000	0	△ 200,000	汎仏保守／その他
		1. 渉外費	200,000	0	△ 200,000	
5.	賦課徴収費		800,000	696,000	△ 104,000	
	1.	報償費	800,000	696,000	△ 104,000	
		1. 報償費				
		1. 教区報奨金	800,000	696,000	△ 104,000	
6.	繰出金		0	0	0	
	1.	基本資金部繰出金	0	0	0	
		1. 基本資金部繰出金	0	0	0	
7.	予備費		12,606,532	0	△ 12,606,532	
	1.	予備費	12,606,532	0	△ 12,606,532	
		1. 予備費	12,606,532	0	△ 12,606,532	
歳 出 合 計			57,596,532	70,255,079	△ 12,658,547	

本年度運用資金部の歳入総額は、¥88,740,362 である

本年度運用資金部の歳出総額は、¥70,255,079 である

したがって、次の会計余剰金が生じたので、翌年度に繰り越す措置を取る

本年度の運用資金部余剰金 ¥18,485,283

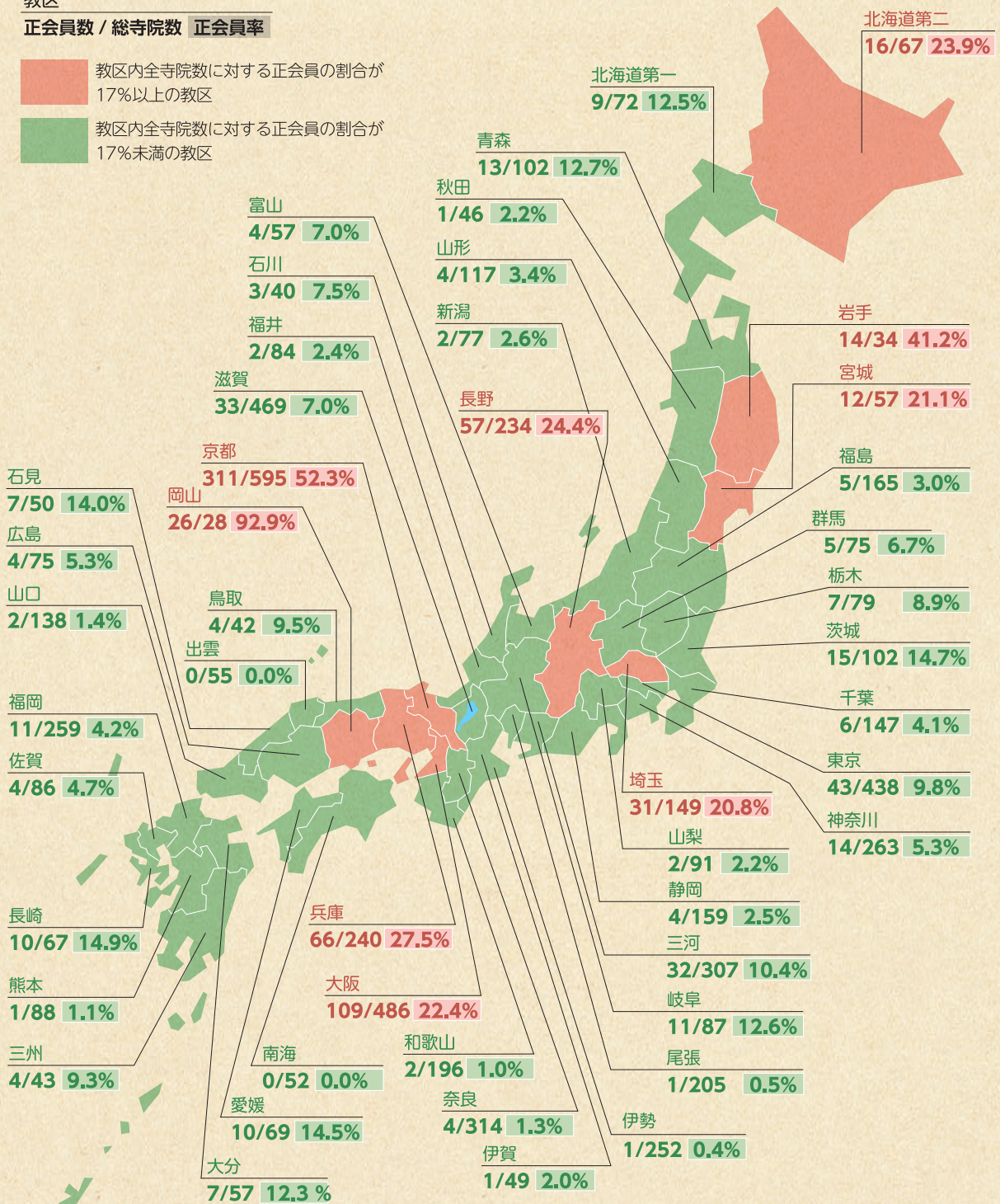
令和4年度 浄土宗開教振興協会教区別会員数

会員数1,200名(全寺院数の約17%)を目標としております。
ご協力をお願いいたします。

教区

正会員数 / 総寺院数 正会員率

- 教区内全寺院数に対する正会員の割合が17%以上の教区
- 教区内全寺院数に対する正会員の割合が17%未満の教区



会員の声

瑞林院 河合 真人



元ブラジル開教師の松野瑞光氏より
ブラジル開教区五重相伝の回向師の依頼を受けたのは2017年の冬だった。

開教師の方々とは接した事はあったもののメンバーの方達と接する機会はなかったので前のめりで依頼をお受けした。というのも自分を含め周りは檀信徒との関係が気薄になり寺には墓か法事で来るだけ、お坊さんはお経を読む人といった関係性が見てとれるので、海外のメンバーとお寺の関係に非常に興味があったのだ。それには僧侶と受者が強く繋がる五重相伝はもってこいだった。

2018年2月5日に日本を旅立ちサンパウロに到着した我々は、南米浄土宗別院日伯寺にて 故佐々木陽明上人にご挨拶をさせていただいた後、クリチバの日伯寺の五重相伝へと向かった。クリチバに着くとそこには沢山のメンバーの方々笑顔で迎えてくれた。握手をする年齢には似合わない分厚く大きな手で日本から移民団としてブラジルに渡り、山を切り開き土地を耕し苦労してきたのだとわかった。女性メンバーの皆さんからのハグは優しく心が温かいのが伝わった。必ず儀式を成功させたいという一団の気持ちが良い五重相伝を生み出し、続いてマリンガ日伯寺の老人ホーム、イヴウーナ日伯寺での五重相伝という過酷なスケジュールであったがメンバーの方々の熱き信仰に助けられ無事に勤めることができた。

我々一団は各自別れてメンバーの家にホームステイをさせてもらい。沢山の話を聞かせてもらった。私は五重相伝の回向、特に贈五重の回向はその人の生き様、死に様を事細かく聞き1人ずつに諷誦回向を作る。話を聞くと日本では考えられないような

ご苦勞をされていた。日本ではあり得ない危険といつも隣り合わせであると知った。しかしその中でお互いに助け合い繋がり明るく前向きに生きていることに感銘を受けた。

メンバーの方々は、時間があればお寺に来て家族のように過ごし、お経を読んだり習字をしたり、ご飯を食べ、笑顔で帰っていく。何かあったらみんなで手伝ってくれる。お寺を中心とした繋がりがしっかりと出来上がっている。本来あるべき寺の姿を見た。時代のせいにして気薄な繋がりがもしやうがないと思っている我々僧侶は、手遅れになる前に開教区を見習い、檀信徒との繋がりを見直すべきである。現状維持は衰退だ。

さて、このころ借家であったクリチバの日伯寺で大江田上人は、5年後必ずみんなのお寺を建てるのだと誓われた。僕自身この素晴らしいブラジルの為になにかしたいと思った。

実は我々一団はクリチバに来るにあたって兵庫教区の中勝寺様からお預かりした阿弥陀三尊を奉納した。その阿弥陀三尊の両端に善導大師法然上人を奉納させてもらおうと日本に帰ってすぐに仏師僧の前田昌宏上人にお願いした。クリチバ日伯寺の移転先も決まり、出来上がったご木造を奉納することは喜びのかぎりである。たくさんの方の支えになる優しいお寺であり続ける事を願っています。



編集後記

浄土宗開教振興協会会報「開教」をご覧いただき、誠にありがとうございます。

当協会会員の皆さま、関係ご寺院の皆さまにおかれましては、平素より格別なるご理解ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当協会では、海外・国内における本宗開教活動への更なるご支援を得ることを目的として、本誌を発行しております。

ご高承のことと存じますが、当協会は本年度より改正規程が施行され、会員種別が変更となりました。名譽・賛助会員制度が廃止され、正会員が単年度会員ではなく毎年度会費制となりました。引き続きご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

この度の第41号では、新型コロナウイルス感染症の影響が薄れ、各開教区・開教地が通常の活動に戻りつつある現状を報告させていただいております。

また、昨年度から引き続き行われている南米開教区クリチバ日伯寺本堂建立に関する活動報告等も致しております。ご協力賜りました皆さまにはこの場を借りて御礼申し上げます。

当協会では、本誌掲載各地での活動をはじめ、様々な開教活動に対し、その一助となるべく各種の支援を継続して行なって参りたいと存じます。

末筆となりましたが、本号発刊にあたり、ご寄稿を賜りました諸師、ご協力を頂きました全ての皆さまへ深謝致します。

開教 第41号

令和5年12月発行

編集 / 発行 浄土宗開教振興協会
東京都港区芝公園4-7-4 浄土宗社会部内
Tel.03-3436-3351 Fax.03-3434-0744
制 表紙・デザイン：株式会社 北陸スタッフ
印刷・製本：株式会社 共立社印刷所



浄土宗開教振興協会ご入会のお願い

浄土宗開教振興協会は、昭和51年の設立以来、開教活動を支援してまいりました。

海外開教については、既存の開教区に加えて、平成15年に海外開教地として指定されたオーストラリア、フランスの2地区に対しても支援しております。

また、国内開教についても、多くの国内開教使の活動に対して、平成15年より本格的に支援を開始しております。

新たにお念仏をひろめるための礎が徐々に、確実に進んでおりますが、国内外ともに、これらの事業を円滑に遂行させるためには、開教振興協会の会員増加による活動資金の強化安定は絶対条件であります。当協会の支援活動を尚一層充実させるため、一人でも多くの教師諸大徳に当協会へのご入会をお願い申し上げます。

※協会の会費・寄付は功績点が付与されます。

※ご入会の有無がご不明な方は、担当までお問い合わせください。

■ 本協会は次の事業を行なっております

- ① 宗規第十七号第二条で定める開教区及び開教地指定に関する宗令（宗令第百一号）（以下「宗令第百一号」という。）第二条で定める開教地への支援
- ② 宗規第八十八号第四条及び第五条で定める開教地域及び開教使への支援
- ③ 開教使及び国内開教使等養成のための支援
- ④ 開教普及のための事業
- ⑤ 事業遂行に必要な調査研究
- ⑥ その他必要な事業

■ 会費の納入および新会員の入会について

所属教区教務所を経てご納入またはご入会いただくか、下記の口座に直接ご納入くださいますようお願い申し上げます。

寄付金および会費振込口座
郵便振替 00160-5-175767
浄土宗開教振興協会

■ 功績点の付与

寄付金および会費については、次のように功績点が付与されます。

- ① 一般勸募寄付金
・20万円に対して1点
- ② 個人寄付金
・5万円に対して1点

【問合先】	浄土宗開教振興協会	〒105-0011 東京都港区芝公園 4-7-4 浄土宗社会部内 TEL:03-3436-3351 FAX:03-3434-0744
【Web】	浄土宗開教ネット	URL: https://kaikyonet.jodo.or.jp/

